

目代館は、中世の音波城か？

富士備前入道と目代さんの関係は？

目代館の他、旧泊小の裏山や稲荷神社にも館跡や曲輪があったのでは？実際に現地を見てみましょう！



郷土館キャラクター まがりん

目代館 遠景



目代館跡 略図 「青森県の中世城館」より引用



目代館跡 航空写真 国土地理院 HP より引用



七戸城跡 航空写真起伏陰影図 国土地理院 HP より引用 1975 年



目代館跡 航空写真起伏陰影図 国土地理院 HP より引用 1975 年

六ヶ所村は七戸領！六ヶ所村は、江戸時代には七戸代官所管轄で、田名部から東回りで七戸への街道である東通があり、六ヶ所村は東通六ヶ村といわれていた。泊湊には、遠見番所が置かれ御給人（武士）が数名配属されていた。七戸と関係の深い歴史がある。

七戸城跡とそっくり！目代館は、康正3年におこった蠣崎蔵人の乱の八戸南部氏方の音波城ではないかと考えられている。目代館の北東に稲荷社のある地域は、「館ノ上」といわれ、館と何らかの関係があったと考えられている。国土地理院の航空写真起伏図を見ると、目代館と稲荷社との地形が、七戸城跡の貝ノ口と似ていて、全体が七戸城跡の地形と館の配置が似ている。稲荷社への登り階段は、ジグザクになっており横曲輪のような地形となっている。貝ノ口のような地形は、平場が三段あり堀切のような地形が見られる。目代館の西側には、沢を挟んで、曲輪のような地形がみられ、関連する曲輪や館跡があったかもしれない。南側には、明神川や作田川があり、同じような防御地形となっている。

蠣崎蔵人の乱：室町時代 こうしょう 康正2年（1456）



康正2年、下北蠣崎の蠣崎蔵人信純が南朝回復を旗印として乱を起こし、根城城主の南部政経が勅裁を得て、翌3年にかけてこれを討ち、蔵人を松前へ追いやるといった事件があった。

1 貞和4年(1348)護良親王の遺子長尹が北部王家として順法寺城に入城。

2 文安5年(1448)蠣崎蔵人が、北朝方に降り野沢出の金で豪華な生活を送る北部王家の義純らを舟遊びに誘い溺死させる。根城城主南部政経は、調査の結果蔵人の陰謀であることを知るが、討伐軍を出せず。

3 宝徳2年(1450)蔵人、第6代義祥の養子(准主)となる。

4 康正2年(1456)3月、蔵人は南朝回復を目指し、正使を斬り勅使を岩屋に押し込めて乱を起こす。北部軍は、城3カ所、砦7カ所、ホテレス大砲を備え、北州、ヲロシア、ダットン、蒙古、アイヌその他外国勢と安東氏、葛西氏と結び総兵力6万2千7百人。

5 康正2年(1456)4月22日、八戸根城南南方、守口5カ所、総勢7千人、七戸城を餌とし海路で本城蠣崎城を奇襲する戦略を立てる。

6 康正2年9月12日、北部軍蔵人の嫡男夜叉丸(14歳)音波城を攻めるが、18日に大敗。19日、北部軍による攻撃で横平口、金鶏城落城。20日には七戸城落城。南方は、南朝回復を旗印に掲げる北部軍と戦うことにためらっていたが、11月に蔵人討伐の勅許が根城に届く。

7 康正3年1月13日、音波城主富士入道が日波城を一旦陥落させるが、22日白糠武蔵守が日波城奪還する。2月11日、八戸水軍、波多城に入城。18日、富士と白糠の合戦。夜半、富士は海上から日波城を急襲。白糠武蔵守は妻子と退去し落城。24日、総大将南部政経以下1715人、市川口より出航。難波崎で大雨大波に遭い船は漂い、奥戸(おこっぺ)の湊に着く。25日、柿崎城陥落。蔵人は闇に紛れて武士泊より小舟で逃亡。27日、順法寺城陥落。3月1日、政経、新屋形の花の御所に入場し、平定する。

8 康正3年4月21日、南部政経は昇殿し、後花園天皇に拝謁。田名部3千石の加増を賜る。